

Avastin + FOLFIRI療法【60分】

【外科】61【進行性・再発大腸癌】

(第 コース目)

*網かけ部分は必須記入事項

診療科:	病棟:
医師名:	印
身長: cm	体重: kg
体表面積: m ²	Cr: mg/dL

■レジメン 下記が1コースの投与スケジュール : 2週ごとを1コースとする

Day	1	2	8	9	~14
施行日	/	/	/	/	
アバステン	↓	休薬	休薬	休薬	
カンプト	↓	休薬	休薬	休薬	
アイソボリン	↓	休薬	休薬	休薬	
5-FU	↓	↓	休薬	休薬	

■投与順序 ※マークは同タイミング投与薬あり

滴下順	
①	アロカリス注235mg 1V デキサート注1.65mg 2A グラニセトンバッグ 100mL 30分
②	●アバステン注【 】mg 生食 100mL 1時間
※③	●カンプト注【 】mg 5%ブドウ糖 250mL 2時間
※③	同時に 側管より ●アイソボリン注【 】mg 5%ブドウ糖 250mL 2時間
④	●①5-FU注【 】mg 生食 50mL 3分
⑤	生食 50mL 10分フラッシュ
⑥	●②5-FU注【 】mg 5%ブドウ糖 120mL 約46時間baxtar infusion pumpで

■投与量 ※投与量の参考

薬剤名	標準投与量	
アバステン注	5mg/kg	mg/Body
カンプト注	150 mg/m ²	mg/Body
アイソボリン注	200 mg/m ²	mg/Body
①5-FU注	400 mg/m ²	mg/Body
②5-FU注	2400 mg/m ²	mg/Body

■注意・確認事項

- 中心静脈から投与すること。
- カンプトは腸閉塞患者には禁忌。
- アバステンは初回投与の忍容性が良好であれば、2回目の投与は60分間で行っても良い。
2回目の投与においても忍容性が良好であれば、それ以降の投与は30分間投与とすることができる。
- アバステンとブドウ糖溶液を混合した場合、アバステン(ベバシズマブ)の力価の減弱が生じるおそれがあるため、ブドウ糖溶液との混合を避け、アバステンとブドウ糖溶液の同じ点滴ラインを用いた同時投与は行わないこと。

入力 薬剤師	看護師	看護師